



図4 清掃前の作業場



図5 清掃後の作業場



図6 整理前の大型機械庫



図7 整理後の大型機械庫

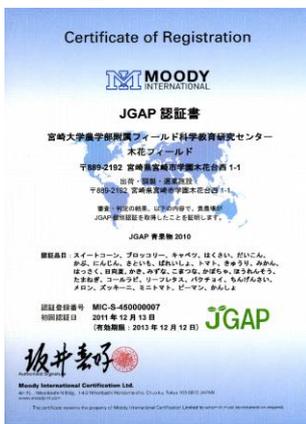


図8 JGAP 認証書

3. JGAP 認証取得後の木花フィールドの現状

メリット

- ・記録管理の徹底による農場管理の改善
- ・残留農薬など様々な危害要因の低減
- ・安全で安心な農産物の生産 (図9)
- ・労働安全性の向上
- ・実習など教育活動の充実
- ・教職員、学生の意識向上と共有

課題

- ・記帳作業などの労力増大
- ・認証取得、維持にかかる諸費用
- ・研究活動との両立
- ・作業体系の非効率化



図9 木花フィールドで生産される農産物

4. 今後の展望

JGAP 認証を取得したことで、木花フィールドにおいても様々なメリットを享受することができた。なかでも、JGAP モデル農場として GAP 教育プログラム的一端を担っていくことは、今後の木花フィールドでの教育活動において大きな意味合いを持つ。しかしながら、現時点ではまだ多くの課題を抱えており、特に作業体系の非効率化は問題である。これは23年度は認証を取得することを第一に GAP ルールを作成したため、そのルールの中に示す作業工程などに実践性に欠ける部分が多々見られることが原因である。24年度は GAP を維持していくためのより経済的でより省力的な方法を検討し、木花フィールドに適した実践性の高いものへ改善していくことが必要であり、大学側から日本 GAP 協会への提言も積極的に行っていきたい。さらに同年度には、穀物の JGAP 認証取得、木花フィールドの技術職員全員の JGAP 指導員の資格取得や、JA など学外からの GAP 研修の受け入れなどが予定されており、GAP 教育基盤としての役割をさらに強化していく。

参考文献

- 1) 日本 GAP 協会, 農場管理を“見える化”し、食の安全を確保する 日本GAP協会 JGAP 公式解説書, 2010, 2-5